
2022年度 前期～後期

2単位

博物館実習 (資格)

用田 政晴

< 授業の方法 >

授業は、対面による講義・実習の授業とします。

【注意】コロナ禍の状況、あるいは受講者数などによって、外部講師等の授業の方法・順番・内容ともに今後変更の可能性があります。その場合は掲示・dotCampas・メール等でお知らせします。

< 授業の目的 >

本科目では、人文学部のDPに示されているように、各受講生が、(1)人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけ、(2)自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけ、さらには、(3)多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる能力を身につけることをめざします。

本実習は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目として位置づけられています。また、受講者が4年次に実際に現場の博物館に向いて行う博物館実習の事前準備としての授業でもあります。

歴史分野、民俗・人類学分野の2分野にわたって、資料に関する基本的な知識と取り扱いの技能、ならびに展示開催についての知識・技能を総合的に修得することを目的としています。

なお、講義担当者は「湖と人間」をテーマとする総合博物館に26年間勤務した実務経験がある教員であり、展示実習に際しては博物館現場で得られた知識・体験等も交えて実践的教育で構成する授業です。

< 到達目標 >

本科目では、以下の5点を到達目標とします。

(1)展示企画(案)に関しグループ内でメンバーの意見を尊重し、協調的、建設的な対話・議論ができる(思考力、協調性、態度・習慣)。

(2)展示テーマに関する情報検索と文献(図書・論文など)を収集できる(情報収集・選択力)。

(3)グループとして限られた展示空間で考古資料を素材として、実現可能な展示企画を作成できる(知識・対話力、技能)。

(4)博物館資料(考古資料)を適切に梱包・開梱することができる(技能)。

(5)グループ員と協働・協調して企画展示を行うことができる(協調性、習慣・態度)。

< 授業のキーワード >

展示の企画力、資料の取り扱い、積極性、コミュニケーション力

< 授業の進め方 >

本科目は、以下のように博物館の実務に関わる講義と実習を行います。講義(学内):学外から招聘した館種の異なる博物館、研究機関等の講師(学芸員、研究者等)による各々の組織・機関の活動内容等の解説(実技を一部含む)を行います。実習(学内外):受講者自身がグループとして企画した展覧会を学内(有瀬図書館)において開催します。

< 履修するにあたって >

(1)各自が1・2年次に履修した博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論などを復習しておいてください。
(2)展示企画と実際の展示においては、グループ内のメンバーと積極的に対話・議論するように心がけてください。

【注意】本科目は3年次に修得しておかないと博物館実習(4年次に開講)を受講できません。

< 授業時間外に必要な学修 >

2年次までに授業で学んだ内容、特に博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論などの学習資料を読み返し復習しておくこと(目安として3?4時間)。

< 提出課題など >

外部講師の講義に関しては、別途、講師から提出内容や方法について指示があれば、それに従ってください。(外部講師の講義全5回)

以下は、教員(用田)にレポートを提出する場合には限りますが、詳細は別途指示します。

次の様式でレポートとしてまとめ、教員までメールにて添付資料としてお送りください。ただし、各外部講師にレポートを提出する場合は、この限りではありません。

○レポートの枚数:A4用紙1枚以内。

○文字サイズと行数、文字数など:文字サイズは10.5、40字・40行で本文1,200?1,500字(学籍番号と名前を忘れずに記入のこと。)

○レポート送付先:教員メールアドレスは下記の通り。

○提出期限:各講師の講義が終了してから2週間以内(期限厳守のこと)。

< 成績評価方法・基準 >

課題レポートあるいは展示企画案等と以下に示す評価(A)、ならびに外部講師の評価を合せて総合的に評価(B)するものとします。(1)展示企画案等レポート20% (2)以下に示した(A)評価40% (3)(B)外部講師総合評価40%(A)は以下の4件で評価します。

1 グループ員と積極的に議論し、展示作業では積極的に動いたか 2 展覧会の企画(案)作成に際し、アイデアを積極的に出したか 3 展示資料を丁寧に扱ったか 4 服装等が適切であったか(レポート等は原則として返却します)

【留意事項】特に無断欠席や無断遅刻は減点(5?10点)します。欠席等する場合は、必ず事前に教員(ただし外部講師の場合は、それぞれ担当)までメール等にて連絡してください。講義で2回、実習で3回、それぞれ超えて

欠席した者は評価対象外とします。

<テキスト>

なし

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本科目全体のガイダンスおよび分野選択等についての説明を聴きます。併せて、評価基準についての説明も受けます(展示開催に向けて、必要に応じて受講者をグループに分けます)。

第2回 講義 日本玩具博物館における伝承文化の復興活動について

外部講師による講義を受けます(講義は1日に2回(各90分)連続して実施します)。予習として講師が所属する博物館・研究所等のホームページを閲覧しておいてください(30分程度)。

尾崎 織女(日本玩具博物館)

・1974年に誕生した玩具をテーマとする個人立展示館が、45年の巨る歩みのなかで、収集保存、調査研究、展示、教育普及など、それぞれの博物館活動を連動させながら発展してきた歴史について概説します。

・海外の玩具博物館との交換収集や、災害時における市民からの「節句人形」の引き取り活動を例に、日本玩具博物館ならではの収集活動についてご紹介し、また「神戸人形」や「ちりめん細工」を例に、博物館が行う伝承文化の復興活動についてお話しします。

第3回 講義 神戸の文化財と神戸市埋蔵文化財センターの役割

外部講師による講義を受けます(講義は1日に2回(各90分)連続して実施します)。予習として講師が所属する博物館・研究所等のホームページを閲覧しておいてください(30分程度)。

松林 宏典(神戸市埋蔵文化財センター)

神戸市内では現在もどこかで発掘調査が行われており、これまでの調査の蓄積によって旧石器時代から明治時代にいたる遺跡が約900か所もあることがわかっています。発掘調査で出土した資料は、神戸市西区にある神戸市埋蔵文化財センターに運び込まれ、復元整理作業がおこなわれたのち、展示などを通じて広く活用されています。

本講義では、まず、日本の文化財保護のあゆみと仕組みについて、神戸市での出来事をまじえながら講義します。また、神戸市における史跡の調査・保護・活用事例等を通じて文化財保護についての知識を深めるとともに、神戸市埋蔵文化財センターの事業を通じて、出土遺物の

整理作業や活用方法あるいは普及・啓発活動についての理解を図ります。

第4回 講義 考古資料の文化財科学的な調査と保存方法について

外部講師による講義を受けます(講義は1日に2回(各90分)連続して実施します)。予習として講師が所属する博物館・研究所等のホームページを閲覧しておいてください(30分程度)。

中村 大介(神戸市埋蔵文化財センター)

歴史的な文化財は人文科学的なアプローチのみならず、地球物理学や動植物学など、様々な自然科学の分析手法を用い、評価がなされてきました。歴史学を含め、これら学際的な学問領域として、保存科学、文化財科学が体系化されています。こうした調査研究で得られた情報は、歴史資料の保存を前提とした展示や活用にも必要となっています。

文化財、特に考古学的資料の活用、保存対策について、文化財科学の視野に立ち、遺跡の発掘調査や地域文化財の事例を中心に紹介します。

第5回 講義 自然史標本収集の意義と価値について

外部講師による講義を受けます(講義は1日に2回(各90分)連続して実施します)。予習として講師が所属する博物館・研究所等のホームページを閲覧しておいてください(30分程度)。

高野 温子(兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県立大学)

自然史系博物館の資料は、動植物等の生物や鉱物・化石等多岐にわたりますが、いずれも自然環境に関する実物付き証拠、エビデンスデータとして価値があると認められたものです。自然史資料は単体でも価値がありますが、目的を持った継続的な収集活動によってコレクションが形成されることにより、更にその学術的重要性を増していきます。

本講義では自然史資料の収集活動、標本の研究や展示等への利用について人と自然の博物館の事例を中心に紹介を行った後、大学所蔵の斉木植物標本コレクション、同コレクション画像データベース、及び附属薬用植物園を活用し、植物さく葉標本の利活用法について実習を行う予定です。

第6回 講義 古美術品の保存、取り扱いと展示方法について

外部講師による講義を受けます(講義は1日に2回(各90分)連続して実施します)。予習として講師が所属する博物館・研究所等のホームページを閲覧しておいてくださ

い(30分程度)。

海原 靖子(白鶴美術館)

1. 古美術をとりまく環境について：白鶴コレクションの成り立ちから美術館設立、近年の展示活動までを概観しつつ、古美術品をとりまく保存環境に関する様々なトピックスを取り上げていきます。

2. 古美術のためにできること：美術品保存環境に関する基礎を確認し、古美術品の保存のために白鶴美術館で行われている実践例を紹介します。

3. 古美術作品取り扱いの基本と実習：古美術品やその保存箱の形状、特徴を説明します。扱う側の姿勢など、基本的な考え方を踏まえた上で、取り扱い・展示方法を実習しましょう。

第7回 展示実習(1)

神戸市埋蔵文化財センターから借用した埋蔵文化財を展示資料として、本学有瀬図書館にてミニ展示を開催します。本実習では、展示準備作業から展示資料の撤収までの全般にわたって、埋蔵文化財センター学芸員の指導を受けて行ないます。初回は埋蔵文化財センターへ出向いて展示資料選定の下調べを行います。

第8回 展示実習(2)

必要に応じてグループに分かれ、それぞれ企画展示の展示企画(案)を策定します。

第9回 展示実習(3)

企画展示(案)の確定作業を行います。

第10回 展示実習(4)

企画展示(案)をもとにグラフィックの作成作業を行います。

第11回 展示実習(5)

グラフィックの作成作業(続き)を行います。

第12回 展示実習(6)

グラフィックの作成作業(続き)を行います。

第13回 展示実習(7)

グラフィックの作成作業(続き)を行います。

第14回 博物館実習の報告・反省会への参加

4年次生を対象に行われる博物館実習の発表会(報告・反省会)に参加し、次年度に博物館実習を受講するための参考にします。

第15回 展示実習(8)

午前中は神戸市埋蔵文化財センターへ行って展示資料の梱包作業を行い、午後から大学図書館(有瀬キャンパス)において展示作業を行います。

第16回 展示実習(9)

有瀬図書館において企画展示の撤収を行い、その後、神戸市埋蔵文化財センターへ資料を運んで、収蔵庫内で開梱・資料配架作業など一連の返却を行います。

第17回 学外研修(博物館見学会)

2分野(歴史分野、民俗・人類学分野)に分かれ、県内の博物館へ出向き、展示手法や来館者サービス等について学びます。

予習として講師が所属する博物館・研究所等のホームページを閲覧しておいてください(30分程度)。

開講日時(後期)は、博物館学芸員課程の掲示板等にて通知します。

2022年度 前期～後期

1単位

博物館実習 (資格)

用田 政晴

<授業の方法>

対面による実習授業

【注意】コロナ禍の状況、あるいは受講者数によっては、授業の方法・内容ともに今後変更の可能性があります。その場合は、事前に掲示・dotCampus・メール等でお知らせします。

<授業の目的>

本科目では、人文学部のDPに示されているように、各受講生が、(1)人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけ、(2)自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけ、さらには(3)多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる能力を身につけることをめざします。

本実習は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目で、博物館学芸員資格取得のための最終段階として設定されています。この科目では、本学教務または受講生が県内外の博物館に依頼し、主として夏休み期間中に博物館現場において、現場の学芸員の指導のもとで実習を行います。本実習では各受講生が出向いた博物館の活動の実際を肌で感じてもらい、博物館の実務を体験的に学ぶことを直接的な目的にしており、実践的教育から構成される授業です。

<到達目標>

本科目では、以下の4点を到達目標とします。

(1)実習期間中に、自分が感じた疑問・意見などを実習の担当学芸員等に訊ね確認することができる(自立性・積極性)

(2)実習館の展示や来館者サービスに関してのよい点、ならびに問題点・課題をそれぞれ3件以上探し出すことができる(判断力・批判力)。

(3)実習館の概要や実習内容を人前で簡潔に説明・紹介することができる(知識、体験、技能)。

(4)自分自身の学芸員としての資質の問題点を2点以上発見できる(態度・習慣、技能)。

<授業のキーワード>

批判力、積極性、博物館活動、課題、来館者サービス

< 授業の進め方 >

本科目は、受講生が決められた博物館へと出かけ、個人が赴いた博物館学芸員の指導のもとで、博物館活動のノウハウを学びます。はじめに受講者が博物館現場で実習する際の留意すべき事柄を事前に把握し、その後、夏休み期間を中心に事前に受講承諾を得ている博物館現場へ出かけて、実際の博物館活動を体験的に学びます。最終回には、学内(有瀬キャンパス)において実習の報告会(反省会)を行います。また、各受講者の文書作成能力等の向上と次年度実習生への道標とすることを目的として、実習結果をまとめた報告書を作成します。本学では、本実習と博物館実習(主に3年次生対象)を合わせて所定の3単位としています。

< 履修するにあたって >

(1)実習館によっては、実習費用を徴収する館があります。また、交通費等は自己負担ですので、ご承知おきください。

(2)実習に際しては、適切な服装等をしてください。実習時の具体的な服装がわからない場合は、個別に実習館に問い合わせてください。

(3)実習では、無断欠席や遅刻をしないようにしてください。

(4)実習は年間を通じてもっとも暑い時期にあたりますので、お茶や水の準備など熱射病対策等には十分注意してください。

(5)自分で実習館を選定することができます。その際は、各自でなるべく早く実習館に直接連絡してください。まず、その博物館が実習生を受け入れているか否かを確認します。実習生を受け入れている場合、実習の時期・期間等について詳細を聞き取り、対処します。

(6)その他不明点などあれば、教務(博物館学芸員課程担当)までお問い合わせください。実習の受講生への連絡は博物館学芸員課程の掲示板を通じて行います。

(8)実習期間中には各分野の担当教員が、受講者が出向している館へ出向き、実習館との打ち合わせをかねて実習の様子を視察します。ただし、実習館によっては担当教員が指導に訪問しない場合もあります。

予習として各自が赴く博物館のホームページを熟覧し、その博物館の設置理念・目的、ならびに展示内容や所蔵資料等について熟知しておくようにしておいてください。(予習60分程度)

< 授業時間外に必要な学修 >

(1)各自が自分が実習に行く博物館について、事前に十分下調べしておくこと。(実習館の理念、目的など、ならびに展示や教育プログラムなどの活動内容など。(60分程度が目安です)) (2)3年次までに授業で学んだ内容(特に、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論など)の復習をしておくこと(復習時間は60分×3回を目安にしてください)。

< 提出課題など >

受講生の提出物は以下の2件です。(1)実習ノート、(2)実習報告書 ともに教務(博物館学芸員養成課程担当)へ提出のこと。

実習ノートおよび実習報告書(様式)はそれぞれ事前ガイダンス時に配布します。実習終了後は速やかに実習ノート・実習報告書を教務へ提出のこと。実習報告書、発表会資料の提出締切日は、別途、学芸員課程掲示板にてお知らせします。受講生へのフィードバックは、各実習館の担当者(学芸員・研究員)が実習ノートへコメント等を記入することで行われます。また、実習報告会では、教員・実習生が各自の発表について批評等を行います。第2回事前ガイダンス時(例年6月下旬~7月初旬に開催)に実習ノートなどを渡しますので必ず出席のこと。事前ガイダンスにやむを得ない理由があつて欠席する場合は、事前に博物館学芸員養成課程担当教員または教務まで申し出ること。

< 成績評価方法・基準 >

以下の4点を合わせて総合的に評価します。(1)実習館の評価50% (2)実習ノート・実習報告書20% (3)報告会発表20% (4)受講態度(積極性など)10%

上記にある「受講態度」とは、主に事前説明会、報告会(反省会)への欠席、遅刻、姿勢などです。(無断での欠席・遅刻はマイナス評価となります)

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

実習全体のガイダンスを聴きます。また、実習に要する必要な手続きや留意事項等を説明を受けます。本ガイダンスは、例年、新学期が始まる前の3月下旬に実施しています。その日時等は、博物館学芸員課程の掲示板にてお知らせします。

第2回 事前ガイダンス

各受講者が受講する博物館(実習館)の決定通知、実習に際しての注意事項、心構え、実習の目的や内容の説明を受けます。また、併せて実習日誌の配布や実習費の徴収など事務的手続きなども行います。(実習に入る直前の説明会ですから、全員必ず参加すること。)説明会は、例年6月下旬~7月初旬に開催していますが、日時等は、学芸員課程掲示板でお知らせします。特別な事情によって、説明会に出席できない場合は、事前に必ず連絡をしてください。

第3回 館務実習(1)

夏休みを中心に、受講者全員がそれぞれ博物館施設に向いて実習を行います。実習期間は館によって異なります。(概ね7~10日間です)本実習では、主に各自が赴いた実習館の施設や業務の概要、バックヤードの見学、ならびに各館学芸員から資料の収集、調査研究などについて

(各自、その日の受講内容を必ず復習しておいてください(復習は40分程度))

第15回 実習報告会

各受講者が博物館実習で得られたことや反省点などの発表を行います。なお、この報告会には次年度実習予定の学生も参加するため、発表者(受講者)は、彼らに向けて建設的な助言をするよう心掛けてください。また、発表を受けて、各分野担当教員から指導・助言を行います。

本報告会は例年10月中旬に実施しています。開催日/開催場所・時間などは、博物館学芸員課程の掲示板にて連絡しますので、見逃さないようにしてください。

2022年度 後期

2単位

博物館概論 (資格)

用田 政晴

< 授業の方法 >

授業は講義を中心に、原則として対面授業で進めます。そこでの意見や質問については、可能な限りその場で対応します。講義では、学外研修(博物館見学)も実施し、訪問館の見学レポートを提出してもらいます。

また、博物館への入門試験にあたる授業であり、自らが国家資格である学芸員の資格取得が可能かを見つめる機会と期間とします。そうした厳しい課程であることをご了解のうえ受講してください。

【注意】今後のコロナ禍の状況あるいは受講者数等によっては、授業の方法・内容ともに変更の可能性があります。その場合は、掲示・dotCampas・メール等でお知らせします。

< 授業の目的 >

本科目では、人文学部のDPに示されているように、各受講生が、(1)人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけ、(2)自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけ、(3)多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる能力を身につけることをめざします。

本科目は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目として設定されています。

わが国で生涯学習が叫ばれて久しく、博物館が社会で果たすべき役割はますます重要となっています。この講義では、博物館の歴史、種類、組織、機能、目的など博物館の基礎知識を習得し、併せて博物館が直面している基本的な課題について学ぶ中で、受講生が今後の博物館のあるべき姿を考え、学芸員資格取得のための基礎的能力を養います。また、受講生自らがその国家資格であり任用資格を求めるに足る強い意志があるか、その覚悟を再確認することも目的とします。したがって求める基準は高く、その評価は厳しいものとなります。

なお、講義者は博物館に26年間勤務した実務経験のある教員であり、博物館現場の業務に精通しています。講義の中ではそうした博物館現場で得られた知識・体験等も交えて話をし、学外研修も行うなど実務的教育で構成する授業です。

< 到達目標 >

本科目では、以下に挙げられた4点の修得をめざします。

- (1)博物館の定義、目的、役割を説明できる(知識)。
- (2)博物館の基本的機能やその多様性を説明できる(知識)。
- (3)博物館学芸員の役割等を説明できる(知識)。
- (4)博物館の現状と課題について、その概略を説明できる(知識)。

< 授業のキーワード >

博物館法、資料の収集・整理・保存、調査・研究、展示、教育普及

< 授業の進め方 >

本科目は、講義を中心に進めます。受講者が講義中での不明点等については、可能な限りその場で解説します。

初回は講義の進め方、評価基準等についてのオリエンテーションを行います。

第2～9回では、博物館とは何か、博物館の歴史や学芸員の職務について学びます。また、博物館づくりや展示づくりの基礎知識を得た後、第14回までの間に博物館の現状と課題を検討します。

最終回には、講義各回の重要事項を復習します。

< 履修するにあたって >

- (1)講義中での疑問点等については、自分自身でも図書館等へ行って積極的に調べるようにしてください。
- (2)講義日程は学外研修(博物館見学)の日程等により変更されることがあります。
- (3)講義日程の変更は、原則として事前にお知らせしますが、博物館学芸員課程の掲示板でも案内します。
- (4)受講生各自が、学芸員という国家資格であり任用資格を求めるに足る強い意志があるか、その覚悟を再確認することも目的とします。したがって求める基準は高く、評価は厳しいものとなりますのでしっかりと学んでください。

【注意】本科目は2年次までに修得しておかないと博物館実習(3年次開講)を受講できませんが、2年次には多くの関連科目が開講されますので、学芸員資格を強い意志をもって求めるなら1年次中にしっかりと学んで単位を取得してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- (1)事前に次回の講義テーマを伝えますので、関連情報を下記参考図書・インターネット等であらかじめ検索して目を通すなどの予習をしておいてください(目安として20～30分)。また、事後学習として講義内容の重要な点をノートなどに整理してください(目安として30～40分)。

(2)受講者は、博物館への理解を深めるため、休日などを利用して自主的に分野の異なる2館以上の博物館を見学してください。

(3)本授業に関わる参考図書・文献類は、大学図書館等を利用して必ず1冊以上は熟読しておくこと。

<提出課題など>

授業において課題を提示しますが、原則、課題レポート(1回) 学外研修レポート(2回)を求めます。さらに出席カードによる小テスト・小レポート等も可能な限り実施します。

レポート作成にあたっては、下記の指定図書を参照するようにしてください。

遅延してのレポート提出は認めませんので提出期限厳守のこと。

<成績評価方法・基準>

以下の4点を勘案して総合的に評価します。

課題レポート(1回)15% 学外研修レポート(2回)30% 小テスト(3回)45% 受講態度(積極性・授業へ臨む姿勢・出席カード小テスト等)10%を点数として積み上げて成績評価の数字を出します。また、レポートは、原則として授業において総評やポイントを解説し、採点した小テスト等は可能な限り返却します。

レポート提出が1回でもない者、小テスト2回以上受験のない者、学外研修無断欠席・遅刻者あるいは2回とも不参加の者および講義への出席(開始5分以上の遅刻2回は1回欠席相当)が規定回数に満たない者は評価対象外とします。

<テキスト>

なし

<参考図書>

(1)吉田憲司(2011)博物館概論,放送大学教育振興会,東京.

(2)全国大学博物館学講座協議会西日本部会編(2012)新時代の博物館学,芙蓉書房出版.東京.

(3)中村浩(1999)博物館学で何がわかるか.扶養書房出版,東京

(4)金山喜昭(2003)博物館学入門-地域博物館学の提唱,慶友社,東京.

(5)真家和生ほか(2014)大学生のための博物館学芸員入門,技報堂出版,東京.

(6)全国大学博物館学講座協議会西日本部会編(2002)概説博物館学,芙蓉書房出版.東京.

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

全15回の講義の内容と進め方を聴き、その中で受講者が博物館や博物館学とは何かについての全体イメージを持つことができるようにします。併せて提出課題やレポートの書き方、厳しい評価基準等についての説明を聴きます。

第2回 博物館と博物館学

博物館とは何か、さらには博物館学とは何かをそれぞれ歴史的過程を振り返りながら学びます。

第3回 博物館の多様性

博物館には、歴史系、考古系、美術系、理工系、自然史系に加え、動植物園から水族館などが含まれます。ここでは博物館の類型区分(館種・設置者別、法的区分等)と多様性について学びます。

第4回 博物館の歴史(1)

博物館が最初に誕生したのはヨーロッパです。その博物館ができた経緯と背景、ならびに近代博物館から現在に至るまでの歴史について総括的に学びます。

第5回 博物館の歴史(2)

日本の博物館は、明治以降の近代化の中で誕生しました。ここでは日本における博物館の歴史を社会的背景とあわせて学びます。

第6回 学芸員の職務

博物館事業推進の主役である学芸員について、その役割および実態について学びます。

第7回 学外研修(1)

兵庫県内の博物館に出向き、訪問館の理念、運営の実際を学ぶ。

第8回 博物館ができるまで

博物館が新規に設置されるまでを具体例をもとに学びます。

第9回 展示ができるまで

展示・展覧会ができるまでの一般的なプロセスについて学びます。

第10回 博物館と文化財

文化財とはなにか、その定義と意義について考えます。また、博物館が文化財の保護・保全について果たすべき役割を関連法令(文化財保護法)を参照しながら学びます。

第11回 学外研修(2)

兵庫県内の博物館に出向き、訪問館の理念、運営の実際を学ぶ。

第12回 現代社会と博物館(1)

博物館が現代社会において果たすべき役割や課題などについて学びます。

第13回 現代社会と博物館(2)

博物館が果たすべき役割のうち、友の会、ボランティア、参加型博物館に焦点を当て、先行事例をもとにそれらの意義や課題について学びます。

第14回 博物館の現状と課題

現在、行財政改革の中で、博物館のあり方が問われています。その背景と課題等について学び、今後あるべき博物館像を探ります。

第15回 まとめ

各回の講義の重要事項や要点を復習することで、各受講者が博物館とは何か、自らが学芸員に向いているか否かについてそれぞれ改めて顧みます。

2022年度 前期

2単位

博物館資料論 (資格)

用田 政晴

< 授業の方法 >

授業は講義を中心に、原則として対面授業で進めます。講義での意見や質問については、その場の授業で可能な限り対応します。講義では、学外研修(博物館見学)も実施し、訪問館の見学レポートを提出してもらいます。

【注意】コロナ禍の状況あるいは受講者数等によっては、授業の方法・内容ともに今後変わる可能性があります。その場合は、掲示・dotCampas・メール等でお知らせします。

< 授業の目的 >

本科目では、人文学部のDPに示されているように、各受講生が、(1)人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけ、(2)自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけ、(3)多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる能力を身につけることをめざします。

本科目は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目として設定されています。

この授業では、各受講生が博物館資料の収集・整理・保管等に関する知識・技術、ならびに博物館の調査研究活動の中での資料研究の位置づけなどについて説明、コメントできることを目的とします。なお、講義者は「湖と人間」をテーマとする総合博物館に26年間勤務した実務経験がある教員であり、博物館現場の業務に精通しています。講義の中では、博物館現場で得られた知識・体験等も交えて話をし、学外研修も行うなど実務的教育で構成する授業です。

< 到達目標 >

本科目では、以下に挙げた5点の修得を到達目標としています。

(1)博物館資料とは何かを、一般博物館資料、生体資料(生きている動植物等)にわけ、それぞれ具体例を3件以上挙げて説明できる。(知識)

(2)博物館における調査研究の内容とその意義を明確に説明できる。(知識)

(3)博物館資料にかかわる法令、条約をそれぞれ2件以上あげ、それらの概略を具体的に説明できる。(知識)

(4)博物館資料公開の理念と方法を明確に説明できる。(知識)

(5)博物館資料と利用者との関係性を明確に説明できる。(知識)

< 授業のキーワード >

博物館資料、調査・研究、収集、整理、保管、活用

< 授業の進め方 >

本科目は、講義を中心に進めます。講義の質問等については、可能な限り授業で解説します。

第1回は受講者が博物館の資料とその保存に関して、概要が把握できるよう全体のオリエンテーションを行います。

第2～14回では、博物館における研究の意義・内容、資料の収集の理念やその保管・整理の方法・内容、また学芸員が知っておかなければならない博物館資料関連の法令、博物館資料公開の理念・方法、博物館資料と利用者との関係性等について幅広く解説します。

第15回には、講義全体の要点を解説してまとめにかえます。

< 履修するにあたって >

(1)1年次に履修した博物館概論の資料関係箇所を各自で復習しておいてください。

(2)講義の中でわからなかった点については、自分自身でも図書館等へ行って調べるようにしてください。

(3)講義日程は学外研修(博物館の見学)の日程により変更されることがあります。講義日程等の変更は、事前にお知らせします。また、博物館学芸員課程の掲示板でもお知らせします。

【注意】本科目は2年次に修得しておかないと3年次の博物館実習を受講できませんので、学芸員資格を強い意志をもって求めるなら、2年次にしっかり学んで単位を取得してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

(1)事前に次回講義テーマ等を伝えますので、関連情報を下記参考図書・インターネット等であらかじめ検索して、目を通しておいてください(目安として20～30分)。講義資料は毎回の授業時に配布します。また、受講生は自発的に講義内容の重要な箇所をノートにまとめ、整理してください(目安として30～40分)。

(2)受講生は、期間中、自主的に身近な博物館を2箇所以上見学するようにしてください。

< 提出課題など >

講義時に課題を提示しますが、原則、課題レポート1回、学外研修レポート1回。レポート作成にあたっては、下記の参考図書等を参照してください。

遅延してのレポート提出は認めませんので提出期限厳守のこと。

< 成績評価方法・基準 >

以下の4点を勘案して総合的に評価します。

課題レポート(1回)25%・学外研修レポート(1回)25% 小テスト等(2回)40%、受講態度(積極性など)10%

レポートの提出のないもの、講義への出席が規定回数に満たないもの等は評価対象外とします。

< テキスト >

なし

<参考図書>

(1)佐々木利和・湯山賢一(2012)博物館資料論．放送大学教育振興会,東京．

(2)八尋克郎・布谷和夫・里口保文(2011)博物館でまなぶ 利用と保存の資料論．東海大学出版会.秦野．

(3)全国大学博物館学講座協議会西日本部会編(2012)新時代の博物館学,芙蓉書房出版.東京．

<授業計画>

第1回 ガイダンス

各回の講義の内容や進め方を聴き、博物館資料の概要を把握する。併せて課題レポートの書き方、評価基準の詳細等についても説明を聴く。

第2回 博物館資料とは何か

博物館で取り扱う資料(モノ)の概念、資料の意義、種類、ならびに資料化の過程等について学ぶ。

第3回 調査研究活動(1)

博物館における調査研究活動の意義とその内容(博物館資料に関する研究、博物館資料の保存に関する研究、博物館資料の活用に関する研究など)について、それぞれの詳細を学ぶ。

第4回 調査研究活動(2)

博物館における資料に関わる調査・研究の内容を館種別に学習する。併せて研究成果の社会への還元の意味やその方法について学ぶ。

第5回 博物館資料収集の理念と方法

博物館が資料を収集する際の理念、原則、および収集の手段・方法などについて学ぶ。併せてその際に必要な情報収集、記録、受入手続き・登録等も含めた基本的内容についても学ぶ。

第6回 博物館資料と法規(1)

博物館ではさまざまな資料(文化財)が取り扱われている。この中には、わが国のみならず、世界的にも貴重な資料が数多く含まれており、法令上規制を受けているものもある。そうした博物館資料に関わる法令の概要を学ぶ。

第7回 博物館資料と法規(2)

現在、地球上の生物多様性が急激に失われつつある。こうした中、特に生きもの系博物館(動物園・水族館・植物園等)では“種の保存”という新たな役割を担いつつある。野生の生きものの保護・保全について学ぶ。

第8回 学外研修(博物館見学)

兵庫県内の博物館へ出向き、その博物館現場で取り扱われる資料にはどのようなものがあり、また利用者にとどのように提供されているかを学習する。(予習として訪問館ウェブサイトの熟覧(20~30分))

第9回 博物館資料の収集(1)

博物館(学芸員)が資料を収集する際の基本的内容(資料の収集の方法、収集時に留意すべき点等)について学ぶ。

第10回 博物館資料の収集(2)

琵琶湖博物館における伝統的生業の技術と琵琶湖地域で

漁業に特化した民具資料の収集と保存・継承の実例に学ぶ。

第11回 資料の分類・整理(1)

博物館資料の取扱いとそれを整理する際の基本的内容(意義・方法)について学ぶ。

第12回 資料の分類・整理(2)

琵琶湖博物館における民具資料整備および活用(展示)に焦点を当てた実際の例を学ぶ。

第13回 博物館資料と利用者

博物館(博物館資料)は、人びとに利用されてこそ意味がある。ここでは博物館資料の利用区分、ならびに博物館資料の収集、保存・活用、情報化などに関し、それらの今後のあり方と課題等について学ぶ。

第14回 資料公開の理念と方法

博物館資料を公開する際の理念、方法、留意事項等について学ぶ。

第15回 まとめ

各回の講義の要点を復習する中で、受講者各自が博物館資料の意義、その保存および公開の意義等について理解を深める。(復習の目安として60~80分)

2022年度 前期

2単位

博物館経営論(資格)

用田 政晴

<授業の方法>

授業は講義を中心に、原則として対面授業で進めます。講義での意見や質問については、可能な限りその場で対応します。講義では、学外研修(博物館見学)も実施し、見学レポートを提出してもらいます。

【注意】コロナ禍の状況、あるいは受講者数等によっては、授業の方法・内容ともに変更の可能性があります。その場合は、皆さんに事前に掲示・dotCampas・メール等でお知らせします。

<授業の目的>

本科目では、人文学部のDPに示されているように、各受講生が、(1)人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけ、(2)自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけ、(3)多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる能力を身につけることをめざします。

本科目は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目として設定されています。

この授業では、受講生が博物館の形態、組織、活動などさまざまな側面における管理・運営のあり方について理解を深め、博物館経営(ミュージアム・マネジメント)に関する基礎的能力を修得することを直接の目的としています。なお、講義者は「湖と人間」をテーマとす

る総合博物館に26年間勤務した実務経験がある教員であり、博物館現場の業務に精通しています。講義の中ではそうした博物館現場で得られた知識・体験等も交えて話をし、学外研修も行うなど実務的教育で構成する授業です。

<到達目標>

本科目では、以下に挙げた5点の修得を到達目標としています。

(1)博物館の行財政制度や博物館に必要な施設・設備について、それぞれ具体例3件ずつ挙げて説明できる(知識)。

(2)博物館の組織・職員等の体制について、3部署に分けてそれぞれの業務内容を説明できる(知識)。

(3)博物館の基本的な業務4件を挙げ、その個々について説明できる(知識)。

(4)博物館としての利用者サービスのあり方、学校や市民・団体、他の博物館等との連携についてその意義、概略を具体的に説明できる(知識)。

(5)博物館のリスクマネジメント(危機管理)を具体的に説明できる(知識)。

<授業のキーワード>

ミュージアムマネジメント、行財政制度、利用者サービス、連携、博物館評価

<授業の進め方>

本科目は、講義を中心に進めます。講義の中でわからなかった点については、次回の授業で可能な限りその場で回答します。

第1回は受講者が博物館経営についての全体イメージを把握できるよう、講義全体のオリエンテーションを行います。

第2～14回では、博物館の行財政制度のあり方、博物館に必要な施設設備、博物館の組織のあり方、職員等の運営体制、博物館の基本業務をはじめ広報活動等の運営計画、展示以外の収益アップのための付帯事業、利用者の満足度を上げるための評価手法の検討、行動規範(博物館倫理)、危機管理(リスクマネジメント)、今日的な利用者サービスのあり方、ならびに学校や市民・団体、他の博物館等との連携について具体例を通じてその詳細、課題等について学びます。

最終回には、それぞれの講義の要点を復習し、本講義のまとめとします。

<履修するにあたって>

(1)各自で1年次に履修した博物館概論の経営論関連部分を復習しておいてください。

(2)講義の中でわからなかった点については、自分自身でも図書館等へ行って積極的に調べるようにしてください。

(3)講義日程は学外研修(博物館見学)の日程等により変更されることがあります。講義日程の変更は、原則として事前にお知らせします。また、博物館学芸員課程の掲

示板でもお知らせします。

【注意】本科目は2年次に修得しておかないと3年次の博物館実習を受講できませんので、学芸員資格を強い意志をもって求めるなら、2年次にしっかり学んで単位を取得してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前に次回の講義テーマ等を伝えますので、関連情報を下記参考図書・インターネット等であらかじめ検索して目を通しておいてください。(目安として20～30分)。また、事後学習として講義内容の重要な点をノートなどに整理しておいてください(目安として30～40分)。予習では、テーマのすべてを理解しておく必要はありません。わからないところをチェックなどしておいてください。

<提出課題など>

授業において課題を提示しますが、原則、課題レポート1回、学外研修レポート1回。レポート作成にあたっては、下記の参考図書を参照するようにしてください。

遅延してのレポート提出は認めませんので提出期限厳守のこと。

<成績評価方法・基準>

以下の4点を勘案して総合的に評価します。

課題レポート(1回)25% 学外研修レポート(1回)25% 小テスト等(2回)40% 受講態度(積極性など)10%。

レポートの提出のないもの、講義への出席が規定回数に満たない者等は評価対象外とします。

<テキスト>

なし

<参考図書>

- (1)佐々木亨・亀井修・竹内有里(2011)博物館経営・情報論.放送大学教育振興会,東京.
- (2)塚原雅彦・デヴィッド・アンダーソン(2004)ミュージアム国富論-英国に学ぶ「知」の産業革命(コミュニケーションブックス).日本地域社会研究所,東京.
- (3)全国大学博物館学講座協議会西日本部会編(2012)新時代の博物館学,芙蓉書房出版.東京.

<授業計画>

第1回 ガイダンス、博物館経営とは何か
講義のねらい、到達目標、およびその進め方・内容、評価基準等についての説明を聴く。また、博物館経営(Museum management)とはどのようなものか、その課題についても学ぶ。

第2回 博物館の行財政制度
従来、博物館では費用対効果を考慮しない事業が行われがちであった。これからの博物館が生き残っていくためには、企業的な経営視点が必須になっている。そうした観点から博物館の予算、事業、決算のあり方などについて学ぶ。

第3回 博物館の施設、設備

博物館が活動を行っていくためには、展示室、収蔵庫、事務室以外にも利用者視点に基づくさまざまな施設、設備、空間が必要である。ここでは博物館に必要な施設と設備の全般について学ぶ。

第4回 博物館の組織、職員

博物館を円滑に運営していくには、館長はじめ学芸員、事務系職員、監視員等さまざまな役割を果たす職員が必要である。ここでは、利用者視点を基点に博物館を効率的に運営していくための組織、職員、運営体制について学ぶ。

第5回 博物館の使命と広報活動

博物館は、個々の館が設定した理念・使命に基づき、基本的業務および利用者を招致するための広報活動等を計画的に実施していく必要がある。博物館経営にとって大切な広報活動について、その意義・方法や課題について学ぶ。

第6回 博物館と評価

最近では、日本の博物館でもいろいろな手法で多様な評価が実施されるようになってきた。ここでは評価が行われる背景を理解し、博物館を評価する方法、評価システムを導入する際に必要となる環境について学ぶ。

第7回 博物館の倫理(行動規範)

「博物館倫理」とは、博物館のさまざまな活動における公益性を確保するために守るべき基準をいう。ここでは特に学芸員が日々活動するに際して守るべき行動規範について学ぶ。

第8回 博物館の危機管理

博物館が地震、火災、盗難などのさまざまなリスクに対して、万全な備えをしておくことは社会的責務といえる。ここでは、博物館におけるリスクマネジメント(危機管理)のあり方について具体例をふまえながら学ぶ。

第9回 利用者サービス

今後博物館が社会的責務を達成していくためには利用者視点に立った運営が不可欠となる。ここでは、博物館が提供すべき利用者サービスの考え方、そのポイントについて学ぶ。

第10回 博物館とユニバーサルデザイン

近年、体の不自由な方だけでなく、誰もがより身近で親しみやすい博物館をめざし、さまざまなユニバーサル化が行われている。ここでは、全国の博物館におけるユニバーサル化への取り組みを眺めてその全体像を学ぶ。

第11回 学外研修(博物館見学)

兵庫県内の博物館施設へ出向き、利用者サービスの実感を体感し、いろいろな側面から訪問館の利用者サービスをチェックする。(予習として訪問館のホームページの閲覧約30分、学外研修の実施日時等は別途お知らせします。)

第12回 博物館における連携(1)

現在、博物館は他機関や学校等と事業全般にわたって連携をしていく必要性に迫られている。ここでは連携の基

本的な考え方を学習するとともに、特に学校教育との連携(博学連携)について詳しく学ぶ。

第13回 博物館における連携(2)

博物館は、市民が容易に博物館活動に参加できるような仕組みを作る必要がある。ここでは、博物館経営における市民参画の意義をはじめ、博物館支援組織、他の博物館や団体等との連携のあり方について学ぶ。

第14回 これからの博物館

現在、人々の知的ニーズの受け皿として博物館の役割はますます重要になっているが、一方で博物館は利用者数の減少、財政難などさまざまな課題を抱えている。ここでは、博物館の現状と課題を整理し、今後の博物館、ならびに学芸員のあるべき姿について考える。

第15回 まとめ

各回の講義の要点を復習する中で、各受講者がミュージアム・マネジメントとは何かについて改めて再認識する場とする。(復習は目安として60-80分)

2022年度 前期

2単位

博物館資料保存論 (資格)

用田 政晴

<授業の方法>

授業は講義を中心に、原則として対面授業で進めます。講義での意見や質問については、授業のその場で可能な限り対応します。また、学外研修(博物館見学)も実施し、見学レポートを提出してもらいます。

【注意】コロナ禍の状況あるいは受講者数等によっては、授業の方法・内容ともに今後変更の可能性があります。その場合は、事前に掲示・dotCampas・メール等でお知らせします。

<授業の目的>

本科目では、人文学部のDPに示されているように、各受講生が、(1)人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけ、(2)自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけ、(3)多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる能力を身につけることをめざします。

本科目は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目として設定されています。

博物館に収蔵された資料は、未永く人類の財産としてそれぞれ資料の特性に見合った、良好な環境下で保管されますが、一方で資料は展示や研究等の博物館活動に利用されてこそ価値があります。つまり博物館資料の利用と保存は矛盾するものです。

本講義では、博物館資料を保存する意義をはじめ、それを長期間にわたり良好な状態に保つための保存環境等について、いくつかの分野における資料ごとに具体例を

参照しつつ、資料保存の意義と方法を総合的に修得することを目的としています。

なお、講義者は「湖と人間」をテーマとする総合博物館に26年間勤務した実務経験がある教員であり、博物館現場の業務に精通しています。講義の中ではそうした博物館現場で得られた知識・体験等も交えて話をし、学外研修も行うなど実務的教育で構成する授業です。

<到達目標>

本科目では、以下の3点を修得することを到達目標とします。

(1)博物館における資料保存の意義、ならびに資料保存に関わるリスクと対応策を、分野別に具体例を3件ずつ挙げて説明できる。(知識)

(2)地域資源(文化財、自然環境、野生生物)の保存と活用について、具体的な取り組みの実施例を一つ挙げ、その地域では地域資源をどのように保存・活用しているかを説明できる。(知識)

(3)歴史分野・美術分野等の具体的資料を5例あげ、それぞれの保存の方法を具体的に説明できる。(知識)

<授業のキーワード>

地域資源、保存環境、資料の活用、総合的有害生物管理(IPM)

<授業の進め方>

本科目は、講義を中心に進めます。受講者が講義の中でわからなかった点については、授業で講師が必要に応じて解説します。

第1回は、講義の進め方、評価基準等についてのオリエンテーションをします。

第2～8回では、資料を輸送する際の梱包・輸送の方法・留意点、資料の修復・複製(繁殖等含む)のための設備・機器、ならびに各種資料にかかわる保存環境条件等について学びます。

第9～14回では、現在多くの博物館で実施されているIPM(総合的有害生物管理)や、盗難等もふくめた各種リスク・災害に対する防止策と対応策(リスク・マネジメント)、さらには地域資源の保存と活用、ならびに博物館が果たすべき今日的な役割と課題について学びます。

最終回には、講義各回の重要事項を復習することでまとめにかえます。

<履修するにあたって>

(1)各自で1年次に履修した博物館概論の資料保存関連部分を復習しておいてください。

(2)講義の中でわからなかった点については、自分自身でも図書館等へ行って積極的に調べるようにしてください。

(3)講義日程は学外研修(博物館見学)の日程等により変更されることがあります。講義日程の変更は、原則として事前に連絡します。また、博物館学芸員課程の掲示板でもお知らせします。

【注意】学芸員資格を強い意志をもって求めるなら、本

科目は2年次にしっかり学んで修得しておくことが望まれ、3年次終了までには必ず修得しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

(1)事前に次回の講義テーマ等を伝えますので、関連情報を下記参考図書・インターネット等であらかじめ検索して目を通しておいてください(目安として20～30分)。講義資料は毎回授業時に配布します。また、事後学習として講義内容の重要な点をノートなどに整理しておいてください(目安として30～40分)。

(2)受講者は、期間中、自主的に分野の異なる身近な博物館関係施設を2箇所以上見学するようにしてください。

<提出課題など>

講義時に課題を提示しますが、課題レポート(1回)、学外研修レポート(1回)。レポート作成にあたっては、下記の指定図書等を参照してください。

遅延してのレポート提出は認めませんので提出期限厳守のこと。

<成績評価方法・基準>

以下の4点を勘案して総合的に評価します。

課題レポート(1回)25% 学外研修レポート(1回)25% 小テスト等(2回)40% 受講態度(積極性など)10%

レポートの提出のないもの、講義への出席が規定回数に満たない者は評価対象外とします。

<テキスト>

なし

<参考図書>

(1)本田光子・森田稔(2012)博物館資料保存論,放送大学教育振興会,東京.

(3)八尋克郎・布谷和夫・里口保文(2011)博物館でまなぶ 利用と保存の資料論,東海大学出版会,秦野.

(4)日本博物館協会(編)(2012)博物館資料取扱いガイドブック-文化財 美術品等梱包・輸送の手引き,(株)ぎょうせい.東京.

(5)全国大学博物館学講座協議会西日本部会編(2012)新時代の博物館学,芙蓉書房出版.東京.

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の進め方を聴くなかで、受講者が博物館で資料(モノ)を保存する意義についての全体的なイメージを描く。あわせて、レポートの書き方、評価基準・方法等についての説明を聴く。

第2回 博物館資料の保全(1)-梱包・輸送

博物館が資料を収集・運搬する際には、事前に資料の状態を詳細に把握し、個々の資料の特性に沿った梱包・輸送が行われなければならない。ここでは資料の梱包・輸送に関する基本的内容を学ぶ。

第3回 博物館資料の保全(2)-資料保存施設・設備・備品

博物館において資料を取り扱うゾーンにおける施設・設

備の実際について、滋賀県立琵琶湖博物館を例に学ぶ。

第4回 資料の修復・複製(1)-博物館資料
博物館資料損壊の原因とその対応のあり方、資料修復時の留意点、複製(レプリカ)を製作する意義とその際の留意点について学ぶ。

第5回 資料の修復・複製(2) - 琵琶湖博物館での例
博物館資料の修復・複製の実際例を琵琶湖博物館の資料から学ぶ。

第6回 資料保存のための施設、設備
博物館が資料保存のために整備すべき施設、設備(空調、収蔵庫、一時保管庫など)について具体例を参照し、現状における課題について学ぶ。

第7回 資料の保存(1)-博物館資料
博物館が資料を保管する場合における温湿度、光、大気などの物理化学的な保存環境に関する基本的事項について学ぶ。

第8回 資料の保存(2)-東京国立博物館の修理保存展示
博物館における資料の修理保存について、東京国立博物館による指針展示からその基礎を学ぶ。

第9回 資料の保存(3)-IPM
博物館資料の保存に関し、伝統的な曝涼(虫干し)から、最近まで行われていた薬剤による害虫・菌類の防除までの歴史を顧みる。さらにIPM(総合的有害生物管理)に関し、その背景、考え方、および具体的な手法を学ぶ。

第10回 資料の災害と対策
博物館における災害(火災、地震、風水害、盗難など)に対する資料保存に関わる予防措置、および災害による資料被害に対する低減措置に関し、いくつかの分類群について具体例を参照しつつ学ぶ。

第11回 学外研修(博物館見学)
神戸市近辺の施設へ出向き、動物園の資料保存活動の実際、資料保存に関わる課題等について理解を深める。訪問館や実施日時などは、別途お知らせします。(訪問館についての予習20分)

第12回 地域資源の保存と活用
地域には、さまざまな文化的資源が眠っている。ここでは、各地で展開されているエコミュージアム、フィールドミュージアム等も含め、地域活性化に果たすべき博物館の今日的な役割を、地域の宝の発掘と活用の面から学ぶ。

第13回 文化財の保存と活用(1)
博物館が文化財(史跡名勝天然記念物、未指定文化財等も含む)の保存・活用に果たすべき今日的な役割と課題について具体例を参照しながら学ぶ。

第14回 文化財の保存と活用(2)
歴史遺産と博物館が一体となってその保存と活用に取り組んでいる事例をいくつか挙げて、その実例に学ぶ。

第15回 まとめ
各回の講義の要点を復習する中で、博物館資料保存の意義や方法等についての理解を深める。(復習の目安とし

て約60分)

2022年度 後期

2単位

博物館展示論(資格)

用田 政晴

<授業の方法>

授業は講義を中心に、原則として対面授業で進めます。講義での意見や質問については、可能な限りその場で対応します。講義では、学外研修(博物館見学)も実施し、訪問館の見学レポートを提出してもらいます。

【注意】コロナ禍の状況あるいは受講者数等によっては、授業の方法・内容ともに変更の可能性があります。その場合は、掲示・dotCampus・メール等でお知らせします。

<授業の目的>

本科目では、人文学部のDPに示されているように、各受講生が、(1)人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけ、(2)自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけ、(3)多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる能力を身につけることをめざします。

本科目は、博物館学芸員の資格を取得するための必修科目として設定されています。

講義では、博物館の展示に関する歴史、展示メディア、展示の企画プロセス、展示による教育活動ならびに展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する基礎的な知識・技術などの修得を直接的な目的とします。なお、講義者は博物館に26年間勤務した実務経験のある教員であり、博物館現場の業務に精通しています。講義の中ではそうした博物館現場で得られた知識・体験等も交えて話をし、学外研修も行うなど実務的教育で構成する授業です。

<到達目標>

本科目では、以下に挙げられた4点を修得することを到達目標とします。

(1)博物館における展示活動の意義、展示の種類、展示の課題、展示を作る際の基本的事項について、それぞれを明確に説明できる(知識・解説力)。

(2)博物館における展示室・展示ケース等の条件を5件以上説明できる(知識)。

(3)展示計画の各段階における評価方法について簡潔に説明できる(知識・判断力)。

(4)実現可能な企画展示(案)を1件企画・作成し(知識・企画力)、わかりやすく発表・説明できる(発表力・技能)。

<授業のキーワード>

展示活動、企画展示、展示評価、展示技術

<授業の進め方>

本科目は、講義を中心に進めます。受講者が講義の中で

わからなかった点については、可能な限りその場で解説します。

初回には、博物館の展示活動に関わる全体イメージを把握するオリエンテーションを行います。第2・3回には、博物館における展示の意義や展示計画の概要を学びます。

第4回以降の講義では、展示の原理、展示を利用した教育プログラム、一般的な展示室の条件、館種別の展示技術や手法、博物館を新設する際や展示を実施する場合における展示計画の手順、展示解説の種類・方法、展示に関連する法規、ならびに近年不可欠となっている展示評価について、その狙いや方法などについて実例を参照しながら学習します。

最終回には、講義全体の要点を解説することで全体のまとめとします。

<履修するにあたって>

(1)各自で必要に応じて1年次に履修した博物館概論の本科目関連部分を復習しておいてください。

(2)講義中での不明点等については、自分自身でも図書館等へ行って積極的に調べるようにしてください。

(3)講義日程は学外研修(博物館見学)の日程等により変更されることがあります。講義日程の変更は、原則として事前にお知らせします。また、博物館学芸員課程の掲示板でもお知らせします。

【注意】学芸員資格を強い意志をもって求めるなら、本科目は2年次にしっかり学んで修得しておくことが望まれ、3年次終了までには必ず修得しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

(1)事前に次回の講義テーマを伝えますので、関連情報を下記参考図書・インターネット等であらかじめ検索して目を通しておいてください(目安として20~30分)。講義資料は毎回授業時に配布します。また、事後学習として講義内容の重要な点をノートなどに整理しておいてください(目安として30~40分)。

(2)受講生は、可能な限り身近にある博物館を2箇所以上訪問し、各館の展示方法・展示形態あるいは展示解説などに注目し、実践的に講義の確認を行ってください。

<提出課題など>

授業において課題は提示しますが、企画展示(案)1件 博物館見学レポート1件。レポート作成にあたっては、下記の指定図書等を参照してください。

遅延してのレポート提出は認めませんので提出期限厳守のこと。

<成績評価方法・基準>

以下を総合的に勘案して評価します。

(1)展示企画(案) 25% (2)学外研修レポート 25% (3)小テスト(2回) 40% (4)受講態度(積極性、ミニ展示評価など) 10%

レポート・企画案等の提出のないもの、小テスト2回受験のない者、講義への出席が規定回数に満たない者は評価対象外とします。

<テキスト>

なし

<参考図書>

(1)佐々木利和・原田一敏・松原茂(2012)博物館展示論。放送大学教育振興会、東京。

(2)ティム・コールドトン(著)染川香澄・芦谷美奈子・井島真智・竹内有理・徳永喜昭(訳)(2000)ハンズ・オンとこれからの博物館。東海大学出版会、東京。

(3)全国大学博物館学講座協議会西日本部会編(2012)新時代の博物館学,芙蓉書房出版。東京。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の進め方・内容を見ながら、受講者が博物館における展示活動全体のイメージを描く。また、課題レポートの書き方、方法等についての説明を受けます。

第2回 博物館と展示

博物館における展示は、博物館側から見れば研究成果の社会への還元と位置づけられる。ここでは展示および展示論の歴史、展示が合わせもつ政治性、社会性なども含めて、博物館における展示の意義について学ぶ。

第3回 展示の原理

展示は、博物館における来館者とのもっとも中心的なコミュニケーションの方法である。展示を通じた学習は基本的には視覚教育が中心となる。ここでは、その基本原理および関連法令について学ぶ。

第4回 展示計画

各種展示(絵画展、歴史資料展、館藏品展など)を計画する際の一般的なプロセスと計画の諸段階における留意点について学ぶ。

第5回 展示と教育(Hands-on)

本講義では、博物館展示の中でも、近年、特に盛んに行われているハンズ・オン展示について、その歴史と現状、課題等について基本的内容を具体例を参照しながら学ぶ。

第6回 展示の技術・方法(1)

今日、博物館における展示は来館者に対し、より積極的なメッセージを伝える方向に変わってきている。ここでは、博物館における展示の諸形態、いくつかの分野について展示技術の基本的内容について学ぶ。

第7回 展示の技術・方法(2)

動物園水族館における展示も、従来の狭い檻・水槽を使った展示から、より広い空間に動物を解き放ち、個々の動物の生き生きとした生態を見せる方向に変化してきた。ここでは、動物園・水族館の歴史と展示の形態や展示手法の変遷について学ぶ。

第8回 展示をつくる

新設博物館が開館時につくる常設展示(平常展示)について、その設計から展示製作に至るプロセス、およびその各段階における留意事項について、関係者との連携・協力も含めて学ぶ。

第9回 企画展示の開催要項(案)作成

受講者個々人が企画展示の開催要項（案）を作成します。

第10回 企画展示（案）発表資料の作成

前回に引き続いて、受講者個々人が企画展示（案）を作成し、作成するとともに、その発表資料を作成します。

第11回 博物館見学

兵庫県内の博物館展示や広報等を熟覧して課題をレポートにまとめます。

第12回 博物館の展示機器

博物館では、展示においてさまざまな機器・備品を活用して利用者に対して学習機会の多様化を図っている。ここでは博物館で活用されている展示機器、消耗品等について学ぶ。

第13回 展示施設の条件

博物館資料を展示する施設（展示室）やその付帯設備に関し、具備すべき条件について基本的な考え方や具体的内容を学ぶ。

第14回 展示の評価

最近、博物館においてもミュージアム・マネージメントの観点から展示の評価が行われつつある。ここでは、展示開発システムにおける評価事例もふくめ、各種評価法とそれら個々の利点・課題について理解を深める。

第15回 まとめ

各回の講義の要点を振り返ることで、受講者各自が本論全体の復習を行う。

2022年度 後期

2単位

博物館情報・メディア論（資格）

倉持 充希

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目では、人文学部のDP「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」を目指し、受講生ひとりひとりが博物館情報・メディアに関する基礎知識を習得し、博物館をめぐる現状を理解したうえで、地域社会が抱える課題に対して提案を行うことによって、豊かな社会の実現に貢献できる能力を身につけることを目的とする。

本科目は、博物館学芸員課程の必修科目である。博物館や美術館は、多種多様な資料を保存・展示する専門機関であるが、近年の情報技術の発展と普及により、私たち市民も、博物館に関わる情報にアクセスしやすくなっている。ここでいう情報とは、博物館資料に関する情報のみならず、教育普及や広報に関する情報なども含む。

この科目では、博物館における情報の意義と活用方法および情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養うことを目的とする。

< 到達目標 >

1. 博物館情報・メディアに関する基礎知識や知的財産の取り扱い方を習得する。(知識・技能)
2. 博物館情報・メディアをめぐる現状を理解し、学芸員および市民の立場から課題を見出す。(思考力・判断力・表現力)
3. 博物館における情報・メディアの活用例を考察し、その役割や今後への提案を適切に述べる。(主体性・協働性)

< 授業のキーワード >

博物館 メディア データベース デジタル・アーカイブ 著作権

< 授業の進め方 >

- ・プロジェクターで写真や図表を見せながら、内容を解説する。
- ・受講生は、毎回、授業内レポートに取り組み、意見を発表して議論する。
- ・各自で博物館・美術館を訪れて調査し、第12・13回に成果を発表する。

・第14回は、兵庫県立美術館あるいは神戸ファッション美術館へ見学に訪れる。

- ・美術館を見学するため、交通費と観覧料（状況によっては、オンラインでチケットの事前購入・日時予約など）が必要となる。

< 履修するにあたって >

・情報・メディアに関する専門知識は必要としないが、博物館学芸員課程の他の科目と合わせて受講することが望ましい。

・各自での博物館見学と兵庫県立美術館での見学には、交通費と観覧料が必要となる。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習(60分)

- ・シラバスを参照し、キーワードの意味を調べておく。
- ・インターネットや書籍を活用し、調査先の博物館・美術館に関する情報や取り上げる観点について予習を進める。

事後学習(60分)

- ・授業での解説を踏まえ、キーワードや重要項目の内容を整理する。
- ・各自博物館・美術館を訪れ、発表準備とレポート作成を進める。

< 提出課題など >

- ・毎回、授業内レポートに取り組み。レポート回収後にフィードバックを行う。
- ・各自で博物館・美術館を訪れて調査し、第12・13回に

成果を発表する。その場でコメントする。

・上記の発表と、第14回の見学を踏まえて、学期末レポートを作成する。レポート提出後、全体への講評をまとめ、Teams等でフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

・授業内レポートとそれに基づく発表・議論 30%(到達目標1・2の達成度合いで判断する)

・プレゼンテーション 20%(到達目標2・3の達成度合い、特に調査内容と発表の準備を重視する)

・学期末レポート 50%(到達目標3の達成度合い、特に調査内容の報告と論理的展開を重視する)

<テキスト>

レジュメや参考資料を配布する。

<参考図書>

適宜、紹介する。

大堀哲・水嶋英治 [編著] 『新博物館学教科書 博物館学III 博物館情報・メディア論*博物館経営論』学文社 2012年 (上記の授業計画は、本書を参考に組み立てられている)

<授業計画>

第1回 情報・メディアの意義

博物館情報・メディア論の概要を示し、提出課題や評価方法を説明する。

第2回 メディアとしての博物館

情報社会では、博物館自体が情報を発信するメディア(媒体)となっていることを学ぶ。

第3回 博物館情報のアクセス評価

各自の調査に備え、博物館による紙媒体・インターネットによる情報提供について、どのようなアクセス評価が行われているかを学ぶ。

第4回 データベースの構築と公開

博物館資料の基本的なドキュメンテーションの作業と、近年進んでいる資料のデータベース化の概要を学ぶ。

第5回 デジタル・アーカイブの現状と課題

博物館資料に関する詳細な情報を、インターネット上で公開するデジタル・アーカイブのプロジェクト例を検討する。

第6回 博物館の情報発信

博物館で扱われている様々な情報の管理と公開について学ぶ。特に、インターネットを活用した情報提供の現状と課題を考察する。

第7回 著作権

博物館で情報を取り扱う際に留意しなければならない知的財産権について、文書、図版、音声、映像に関わる著作権を中心に学ぶ。

第8回 個人情報の保護

博物館の業務とも関わりの深い個人情報保護法やガイドラインを基に、個人情報保護の基本概念を学ぶ。

第9回 著作物、個人情報の利用

著作物利用の際に必要な許諾や、個人情報利用の際に必

要な本人の同意などについて、具体例を交えながら学ぶ。
第10回 デジタル・ミュージアム(1) 国内の事例
博物館における資料のデジタル化のフローやドキュメンテーションについて学び、デジタル・ミュージアムの国内の事例を検討する。

第11回 デジタル・ミュージアム(2) 国外の事例
国外のデジタル・ミュージアムの具体例を学ぶ。併せて、ヨーロッパの美術館における情報メディアの活用や市民との関わりについても考察する。

第12回 プレゼンテーション(1)

受講生が博物館・美術館で調査した情報・メディアの活用例を報告し、議論する。

第13回 プレゼンテーション(2)

前回の続きと、各発表で提示された様々な課題を踏まえた全体討論を行う。

第14回 学外見学(日程は学期中に告知)

兵庫県立美術館あるいは神戸ファッション美術館を訪れ、美術館での情報収集について理解を深める。

第15回 総括

学習内容、各自の調査結果、美術館見学を総括し、博物館における今後の情報活用について議論する。

2022年度 後期

2単位

博物館教育論(資格)

用田 政晴

<授業の方法>

授業は講義を中心に、原則として対面授業で進めます。講義での意見や質問については、可能な限りその場で対応します。

【注意】コロナ禍の状況あるいは受講者数等によっては、授業の方法・内容ともに変更の可能性があります。その場合は、掲示・dotCampas・メール等でお知らせします。

<授業の目的>

本科目では、人文学部のDPに示されているように、各受講生が、(1)人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけ、(2)自己の将来を計画的に考え、それを実現に結びつける行動力を身につけ、(3)多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる能力を身につけることをめざします。

本科目は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目として設定されています。

講義では、博物館における教育活動の歴史とその今日的なあり方を考えるための基礎となる理論および実践に関する知識と方法を修得し、博物館に特徴的な教育機能に関する基礎的能力を養うことを直接的な目的とします。なお、講義者は博物館に26年間勤務した実務経験のある教員であり、博物館現場の業務に精通しています。講義

の中ではそうした博物館現場で得られた知識・体験等も交えて話し、実際に教育プログラム案作成を行うなど実務的教育で構成する授業です。

<到達目標>

本科目では、受講生が以下の4点を修得することを達成目標とします。

- (1)博物館における教育活動の目的と方法、およびその歴史の概略を説明できる(知識)。
- (2)博物館教育における現状と課題を明確に説明できる(知識)。
- (3)博物館で実施する教育プログラム(案)を企画・作成できる(企画力)。
- (4)教育プログラム(案)をわかりやすく発表・説明できる(表現/発表力)。

<授業のキーワード>

学び、生涯教育、学校教育、学習プログラム、博学連携
<授業の進め方>

本科目は、講義を中心に進めます。講義の中での不明点等については、可能な限りその場で解説します。

初回授業では、博物館の教育活動の全体像を把握するためのオリエンテーション等を行います。

第2回以降の講義では、博物館における教育活動の歴史、意義、方法(特に教育プログラムの作成やその評価)の概要を実例を参照しながら学びます。

最終回には、講義全体の要点を解説することで全体のまとめとします。

<履修するにあたって>

- (1)各自で必要に応じて1年次に履修した博物館概論の本科目関連部分を復習しておいてください。
- (2)講義の中でわからなかった点については、自分自身でも図書館等へ行って積極的に調べるようにしてください。
- (3)講義日程は事情により変更されることがあります。原則として事前に講義時にお知らせします。また、博物館学芸員課程の掲示・dotCampus・メール等でもお知らせします。

【注意】学芸員資格を強い意志をもって求めるなら、本科目は2年次にしっかり学んで修得しておくことが望まれ、3年次終了までには必ず修得しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

- (1)事前に次回の講義テーマ等を伝えますので、関連情報を下記参考図書・インターネット等であらかじめ検索して、目を通しておいてください(目安として20~30分)。また、事後学習として講義内容の重要な点をノートなどに整理しておいてください(目安として30~40分)。
- (2)受講生は、期間中に身近にある博物館をできる限り訪問し、展示をはじめ各種教育プログラムなどに注目し、実践的に講義の確認を行うようにしてください。

<提出課題など>

授業において課題は提示しますが、課題レポート1回、

教育プログラム(案)作成・発表資料1回。

レポート作成にあたっては、下記の指定図書等を参照してください。

遅延してのレポート提出は認めませんので提出期限厳守のこと。

<成績評価方法・基準>

以下の4点を総合的に勘案して評価します。

- (1)課題レポート(1回)25%
- (2)教育プログラム(案)作成・発表25%
- (3)小テスト(2回)40%
- (4)受講態度(積極性など)10%

課題レポートは、原則として授業において総評・コメント等により解説します。

レポートや教育プログラム(案)等の提出のないもの、小テスト2回受験のない者、講義への出席が規定回数に満たない者は評価対象外とします。

<テキスト>

なし

<参考図書>

- (1)寺島洋子・大高 幸(2012)博物館教育論．放送大学教育研究会，東京．
- (2)染川香澄・芦谷美奈子・井島真知・竹内有理・徳永喜昭(2000)ハンズ・オンとこれからの博物館．東海大学出版会，秦野．
- (3)全国大学博物館学講座協議会西日本部会編(2012)新時代の博物館学，芙蓉書房出版．東京．

<授業計画>

第1回 ガイダンス、教育とは何か

講義の進め方、および課題レポートの書き方、評価基準・方法等について説明を聴く。また、博物館における“学び”について、その理念・原理について学ぶ。

第2回 海外の博物館教育

博物館教育に関しては欧米の博物館が常に先導的役割を果たしてきた。ここでは、わが国の博物館教育のありかたを検討するための素材として、欧米諸国の博物館教育の歴史、現状を学ぶ。

第3回 生涯教育と博物館

生涯教育とは、個人自らが自由意思にもとづいて創造的な学習をするという形態であり、その内容や形態も多様である。ここでは博物館の生涯教育全体の中での立ち位置、役割、理念等について学ぶ。

第4回 博物館と学校教育

博物館はその特性を活かして学校教育と連携することが望まれている。ここではその背景と実態、課題等について学ぶ。

第5回 博物館教育の原理、特性

博物館における教育は、自らが選んで自発的に学ぶという点において学校教育とは基本的に異なっている。ここでは、博物館における“学び”の特性を博物館の歴史や社会情勢の変化と照らし合わせて学ぶ。

第6回 博物館の教育(1)

展示(常設展示、企画展示)、体験・発見室(ディスカバリールーム)などを通じた教育および教育プログラムについて具体例を参照しつつ学ぶ。

第7回 博物館の教育(2)

展示以外の各種教育プログラム(講座、講演会、シンポジウムなど)について企画方法や課題について学ぶ。

第8回 博物館教育の専門職

博物館には、一般に展示をはじめとして数多くの教育プログラムがある。その中心的役割を担っているのが博物館の教育専門職(Educator)である。国内外における博物館教育専門職の実態とそのあるべき姿をさぐる。

第9回 博物館教育の特色(1)

博物館教育は、博物館が扱う対象分野によってさまざまな特徴がみられる。ここではいくつかの文化系博物館について、それぞれの教育の特色について具体例から学ぶ。

第10回 博物館教育の特色(2)

自然系博物館で行われる教育活動は人文系博物館における教育活動とはかなり異なっている。ここではいくつかの自然系博物館について、それぞれの教育の特色について具体例から学ぶ。併せて、子ども博物館における教育活動についても学ぶ。

第11回 教育プログラムの評価

博物館にはさまざまな学習プログラムが用意されている。ここでは博物館で開発されるワークシート、ワークショップ、学校向け学習プログラムを中心に教育プログラムの評価の仕方、その課題等について学ぶ。

第12回 地域博物館の歴史、教育機能、課題

今日、特に地域博物館において、その立地する地域の人びととの対話および協働した活動が不可欠となっている。ここでは地域博物館の教育活動を中心に、今日までの地域博物館の歴史や現在抱えている課題について学ぶ。

第13回 教育プログラムの発表(1)

受講生が作成した教育プログラムの(対象、狙い、内容、予算など)を発表し、それぞれの発表について全員で講評を行う。

第14回 教育プログラムの発表(2)

受講生が作成した教育プログラムの(対象、狙い、内容、予算など)を発表し、それぞれの発表について全員で講評を行う。

第15回 まとめ

本講義全体にわたって要点を振り返り、総括的に復習を行う。